

## ✠024 バビロン王国（新バビロニア王国、新バビロニア帝国）

BC625 (626)～BC539 (536)。カルデア（メソポタミア南東部に広がる沼沢地域の歴史的呼称）の将軍**ナボポラッサル**により**メソポタミア**（チグリス川とユーフラテス川の間の中積平野である。現在のイラクの一部にあたる。）に建国された。首都はバビロン。カルデア王国とも言う。

### ✠**ナボポラッサル** Nabopolassar（初代の王、BC625～BC605）

バビロニアで勢力を築いた**ナボポラッサル**がBC625にアッシリアからバビロンを奪取し建国。BC616、**ナボポラッサル**はアッシリアを破り、さらにアッシュールを陥落した。BC614、アッシリアと同盟していたスキタイ人勢力をメディア王キュアクサレス2世が撃破すると、BC612にメディア王国（イラン高原西部のイラン人の一派が建国し、メディア人がBC612、アッシリア帝国を滅ぼす。四国分立時代にイラン高原を支配したが、約60年の短命に終わり、BC549にアケメネス朝ペルシア帝国に滅ぼされた。）と同盟を結び、アッシリアの王都ニネヴェを攻撃して陥落させ（ニネヴェの戦い）、BC609年にアッシリアを滅ぼした（ハッラーン陥落）。エジプトから侵攻してきていたネコ2世がBC609のメギドの戦いでユダ王国を攻略したため、BC605に**ナボポラッサル**は長男**ネブカドネツアル**（＝**ネブカドネザル**）を差し向けた（カルケミシュの戦い）。しかし、同年に**ナボポラッサル**は急死した（BC605年8月15日）。**ナボポラッサル**が死去すると、息子の**ネブカドネツアル**（＝**ネブカドネザル**）は急遽バビロンへ帰還して王位を継ぎバビロンの王となりました（BC604～562）。彼は**ネブカドネツアル**2世とも呼ばれる。

✠**ネブカドネツアル** Nebuchadnezzar（＝**ネブカドネザル**、BC604～BC562）：**ネブカドネツアル**2世BC606、**ネブカドネツアル**（＝**ネブカドネザル**）はカルケミシュの戦いでネコ2世率いるエジプト軍（エジプト第26王朝）を撃退し、新バビロニアの最盛期を築くことになる。彼はイシュタル門や空中庭園などの建設で有名であり、またユダ王国の離反に対して二度の遠征を行い、これを滅ぼした。ユダヤ人の大量移送、いわゆるバビロン捕囚が行われたのも彼の時代である。

### ✠**アメル・マルドゥク**（Amel-Marduk、BC562～BC560）、新バビロニアの第3代王

聖書では**エビル・メロダク** Evil-Merodach という名で登場する。父である**ネブカドネツアル**（＝**ネブカドネザル**）2世の後を継いで王となったが、治世はわずか2年間だった。聖書の「列王記下」25章27節以下によると、彼は37年間にわたってバビロンに捕らえていたユダ王国の王**ヨヤキン**を解放したとある。最後は、義弟（**ネブカドネツアル**の娘婿）の**ネルガル・シャレゼル**（**ネリグリッサル**、**ネリグリッサロス**）に暗殺された。

### ✠**ネルガル・シャレゼル**（Nergal-sharezer）BC560～BC556

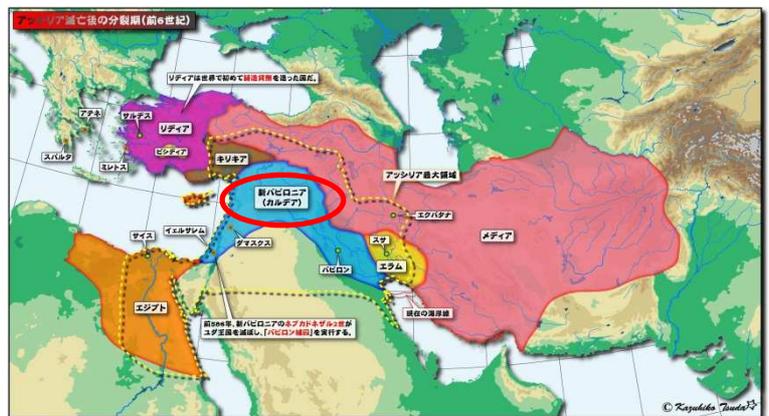
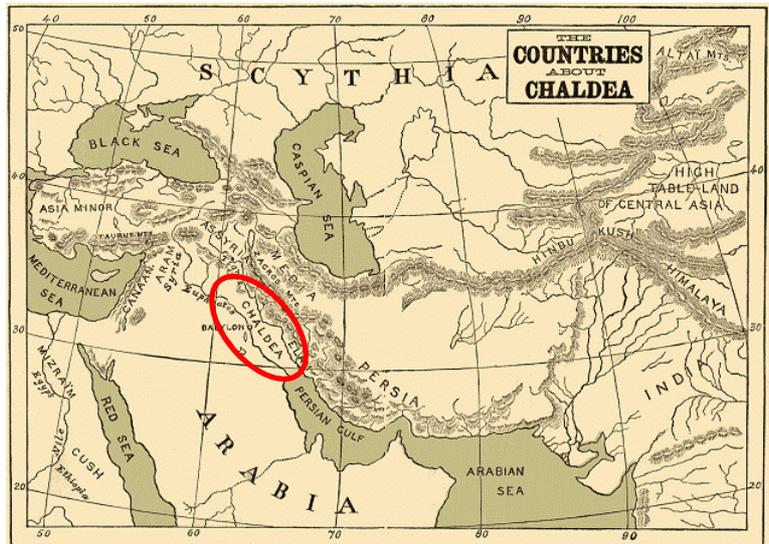
✠**ラバシ・マルドゥク**（Labashi-Marduk）BC556。**ネルガル・シャレゼル**（**ネリグリッサル**、**ネリグリッサロス**）の息子。父王の4年の治世の後、幼くして即位した。あまりに幼すぎたためか、国政が立ち行かず、即位後わずか9ヶ月で暗殺された。

🗨️ **ナボニドス** (Nabonidus) BC555 (556) ~ BC539。義弟（ネブカドネツアルの娘ニトクリスの婿）。ナボニドスは外征が多く、息子のベルシャツアル（摂政）と共同統治。

BC625、カルデア（メソポタミア南東部に広がる湿地帯の歴史的呼称）の将軍**ナボポラツサル**は、メソポタミア（チグリス川とユーフラテス川の間の沖積平野である。現在のイラクの一部にあたる。）に、アッシリア（メソポタミア〈現在のイラク〉北部を占める地域）から**バビロン**を奪取し、「新バビロニア王国（カルデア王朝、カルデア帝国。首都はバビロン）」を建国した。

「カルデア」とは、メソポタミア南東部に広がる湿地帯の歴史的呼称であり、BC10 世紀以降にこの地に移り住んだセム系遊牧民の諸部族をカルデア人と呼んでいる。

カルデア人が定住した地域はバビロニア南部にあり、主にユーフラテス川の東岸沿いにあった。カルデアという名は一般にメソポタミア南部全域を指す言葉として使われるようになったが、本来のカルデアは実のところ、ユーフラテス川とチグリス川の堆積物によってメソポタミア南東端に形成された、この2つの川の流れに沿った長さ約 400 マイル、幅およそ 100 マイルに広がる広大な平原であった（現在ではカルデア人がバビロニアの最初の定住民であったとは考えられていない）。バビロニアは古代世界の学問の中心であった。星の動きを観察して将来を占う占星術でも知られていた（イザ 47:13）。このようにカルデア



人は知的レベルが高く、「天文学」・「占星術」を発達させていたことで高名であり、「カルデア人の知恵」とは天文学・占星術のことである。占星術を司るバビロニアの知識階級ないし祭司階級をたんにカルデア人と呼ぶようにもなった。

BC609 のメギドの戦いで、エジプトから侵攻してきていたネコ 2 世がユダ王国を攻略したため、BC605 にナボポラツサルは長男ネブカドネツアルを差し向けた（カルケミシュの戦い）。同年、ナボポラツサルは急死している。

エジプトとの戦いが続く中、2 代目の王ネブカドネツアル 2 世が即位した。BC605、ネブカドネツアルはカルケミシュの戦いでネコ 2 世率いるエジプト軍（エジプト第 26 王朝）を撃退し、新バビロニアの最盛期を築いた。ネブカドネツアルが王位に就くとバビロンは美しい都市となった。

彼はバビロン全体を全長 18 km にも及ぶ「**二重の城壁**」（高さ 90m、厚さ 24m、100 の門と 250 の塔を

そなえていた。「生命の樹」という不老不死になる力を持つ木を王が探しに行くために、門を開ける儀式があり、その時に壁の間をシルシュ（バビロンの神マルドゥクの使いの聖獣）が走っているとされた。）で囲んだ。有名な「イシュタル門」（バビロンの北域に位置する、8番目の門。ベルリンのペルガモン博物館、下写真A）をはじめとする巨大で豪華な城門を取り付けさせ、更にバビロンを南北に縦断する「大行列道路」を建設した。



神殿を尊重し、父王ナボポラッサルが着手した**聖塔（ジックラト）**、バベルの塔を再建し、バビロン エ・テメン・アン・キの南にあった、古代バビロニアで信仰された神マルドゥク（マルドック）を奉る寺院エサギラをはじめとする由緒ある神殿を修復し、また多くの神殿を新設した。ネブカドネツアルの時代には、バビロン市にマルドゥク（マルドック）の神殿だけで 55 を数え、総数 1000 以上の大小の神殿があった。

**聖塔（ジックラト）**またはジグラート Ziggurat → → 古代メソポタミアにおいて日乾燥瓦を用いて数階層に組み上げて建てられた聖塔である。



ジックラット並び世界中の七不思議に数えられた「**空中庭園**」は、メディア出身で砂漠の国に輿入れするのを嫌がった王妃アミュティスを慰めるためにネブカドネザル 2 世がバビロンに建造した。宮殿の中に作った高さ 25m、5 段の階段状になっているテラスに土を盛り、水を上まで汲み上げて下に流し、樹木や花などを植えた。あまりの大きさのため、遠くから見ると、あたかも空中に吊り下げられているように見えたという。一番上の面積が 60 平方メートルと推定される。水を汲み上げる方法については、らせん水揚げ機などの説明がされているが決定的ではない。BC538 のペルシアによる侵略の時に破壊されたという。